

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 30	福山市立新市中央中学校
最終更新日	2018年(平成30年)4月12日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 忙しい中、先生方の取組に感謝している。 評価のための評価ではいけない。子どもたちの実態で勝負して欲しい。 満足度の否定的な評価の保護者は、何に対して不満なのかを把握して欲しい。 学校と地域と連携・協力は優れている。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の県学力調査では小学校1校が全てで県平均を上回り、中学校と小学校1校が一部で上回り、向上が伺える。 新市スタンダードの生活4項目は全体的に良好である。 昨年度の新体力テストでは小学校1校と中学校で7割が県平均を上回り、小学校2校で5割が上回り、向上が伺える。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>よりよくかんがえる力、チャレンジする力、つながる力</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、深めたり広げたりする子ども 自分の考えを、相手に分かりやすく伝え、納得させようとする子ども 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組もうとする子ども 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題の解決策を創造しようとする子ども 国語では説明文教材を通して構成を読み取る力を付ける授業づくり。 算数・数学では主体的に学び合うことを通して筋道立てて表現する力を付ける授業づくり。 地域をテーマにしたふるさと学習が小中で円滑に接続できるようカリキュラムの改善を図る。 新市スタンダード学習5項目(準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習)、生活4項目(挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除)の徹底。
---	---	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「夢を描き、その実現に向けて努力し続ける生徒」を育て、生徒・保護者及び地域社会の期待に応える学校づくりを推し進める。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>よりよくかんがえる力</p>	<p>チャレンジする力</p>	<p>つながる力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心を持ち、主体的に問題解決に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識やスキルを活用し、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、判断や意思決定をしている。 自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、相手に分かりやすく伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を立て、見直しを持って取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題解決をしようとしている。
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 県学力調査結果では、国語・数学・理科のタイプI、英語のタイプIIが県平均を上回っている。全国学力・学習状況調査では、国語のAで全国平均を上回っている。 「比較・分類・関連付けて考える」生徒79%、「分かりやすく伝えるよう工夫する」生徒75%である。 「自分の目標を持って努力している」生徒82%、「部活に目標を持って参加している」生徒83%である。 新市スタンダードでは、準備80%、チャイム98%、話を聞く86%、姿勢80%、家庭学習70%、挨拶84%、言葉づかい92%、身だしなみ96%、掃除84%である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マップとアクションプランに基づいて、全教員が授業改善に取り組んでいる。「個人のアクションプランを意識して授業改善に努めている」95%、「対話的で深い学びにつながる授業づくりに向けて工夫している」90%、「授業力が向上してきていると感じる」70%である。また、「意欲・関心や疑問の持てる学習課題を設定し、意欲的に取り組ませ、それを振り返らせている」(課題95%、取組95%、振り返り90%)、「よりよく考えさせるために、資料を活用する授業や、問いに対する自分の考えや他者の考えを書かせる授業を仕組んでいる」(資料55、書く55)「わかりやすく伝えられるようにするために、ペアやグループで話し合う場面を設けている」80%、「カリキュラム・マップを見直しながら、それに基づき、協働して課題解決させる活動を仕組んでいる」80%である。 「考え、議論する道徳」に向けては、校内研修をしたり、先進校に学んだりしている。授業改善を進めていくことはこれからである。 	<p>2・3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識やスキルを活用し、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、深めたり広げたりして、判断や意思決定をしている。 自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、相手に分かりやすく伝え、納得させようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標と目標達成に向けた計画を立て、取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや違いを認め合い、自ら積極的に他者とかかわり、協働して課題の解決策を創造しようとしている。 	
	<p>教科等</p> <p>道徳</p>			
	<p>研究</p> <p>主題・内容等</p>	<p>(研究主題) 思考力・表現力の育成</p> <p>(研究内容) ・それぞれの教科で、どのように考えさせ、どのように伝えさせるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの教科で、面白い授業とは、どのような授業なのか。 「考え、議論する道徳」に向けて、どう改善していくのか。 		
	<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意欲・関心や疑問を持たせるような導入の工夫を行い、「どの考え方が使えるか」、「他のやり方は」、「分かりやすい伝え方は」と意欲的・主体的に考えさせる授業(よりよく考える力) 毎時間の目標を意識させ、その達成に向けて意欲的・主体的に取り組ませ、まとめを自分の言葉で表現させて、目標が達成できたかを振り返らせさせる授業(チャレンジする力) 他者と意欲的・主体的にかかわり、協働して課題解決させる授業(つながる力) 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 セ ィ 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	力 セ ィ 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
1	「自ら考え学ぶ 授業」の推進		継 続	よりよく考える 力を育成する。	どのように考えるの か、表現させるのかを 意図的・継続的に指導 する。	・比較・分類・関連 付けて考える生徒 80% ・分かりやすく伝わ るよう工夫してい る生徒80%									
			継 続	チャレンジする 力を育成する。	適切な目標を設定し、 まとめを自分の言葉で 表現させて、目標が達 成できたかを振り返ら せる。	・目標を意識して授 業をする生徒95% ・目標に沿って振り 返る生徒98%									
			★ 継 続	つながる力を育 成する。	カリキュラム・マップ に基づき、協働して課 題解決させる活動を仕 組む。	カリキュラム・マップ に基づいて、「課題発 見・解決学習」に取り 組んだ教員100%									
			★ 新 規	「子ども主体の 学び」全教室展 開を進める。	・カリキュラム・マッ プやアクションプラン に基づく授業改善を進 める。 ・「考え、議論する道 徳」に向けた研修や授 業改善を進める。	・授業がよくわかる生 徒80%。授業が面白 い生徒70% ・「考え、議論する道 徳」に向け、授業改善を進 めた教員100%									
1	市民一丸となっ た取組の推進	★	継 続	チャレンジする 力を育成する。	部活動で、チームや個 人の目標達成に向けた 計画を立てさせ、定期 的に振り返らせ、改善 方策を考えさせる。	・目標を意識して活動 する生徒80% ・目標を達成した部活 動100%									
			継 続	生徒の地域貢献 活動を推進する。	ボランティア活動の頑 張りを評価するととも に、それを各種便り で発信する。	ボランティア活動経験 (校外+PTA整備) のある生徒85%									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。